

ツバメ調査の目的

ツバメ観察は身近な環境の観察バロメーター

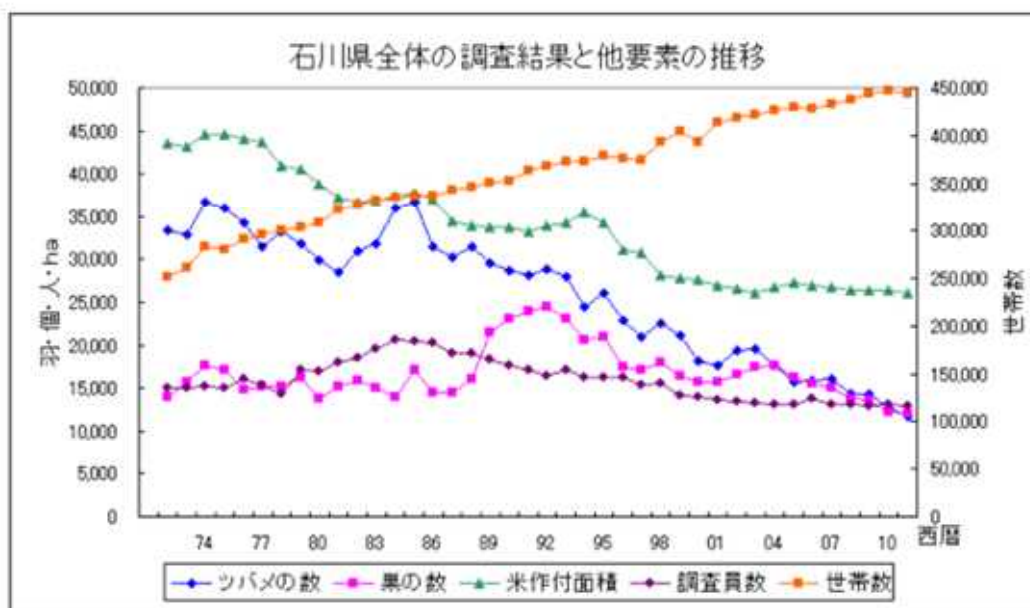
石川県の調査は小学生により40年間継続されこのような長期にわたる調査は日本でも石川県だけです。

この調査を見習い日本だけでなく韓国、台湾、中国でもツバメの調査が始まっておりそれぞれの国と交流することによりツバメの現状がわかってきました。

日本では各地域においてツバメの生息数や環境の違いによるその生態なども異なっていることなどが判り始めています。

そこで、私達あわら市でも「ツバメ子育て応援団」のメンバーを多く募集し、ツバメがどのような生活をしているか観察してみようと思います。

下のグラフは石川県の調査結果です。



この調査結果を見ると、石川県の米の作付面積は減少しています。その減少に比例するかのようにつばめの生息数は減少しています。

このことから、ツバメ達が水田で多くの餌を採っていることが判ります。

- 1 ツバメたちは、私たちの生活と密接な関係が有ることが判ります。
- 2 都会の吹田市は、万博後、環境が大きく変わった都市です。1988年から2010年の間にツバメの数は3割以下になっております。同じく大阪市淀川区では30年前にツバメ通りと名付けられた通りが現在はシャッター通りとなってしまいました、同じくしてツバメの姿もすくなくなり激減してしまいました。
- 3 都会でのツバメたちはどこに行ったかを調べてみると人が多く集まる賑やかな繁華街に移動しているそうです。
- 4 人を恋しがるツバメたちが安心して過ごせるまちづくりが出来るときっと素晴らしいまちになるでしょう。
- 5 この傾向は台湾、韓国、中国でも同様にみられます。

< ツバメ減少の原因 >

1 里山の自然や農耕地の減少や農薬の使用

餌の減少 ツバメは子育ての間一日に約600回餌を運んでいる。餌は赤とんぼなどのトンボ類やカメムシ、羽アリ類等、農耕地や里山に餌を求めています、餌が少なくなると、繁殖できるヒナの数も減り子育ての成功率にも影響してきます。この現象は都会部と農村地帯での差は顕著に表れています。

2 西洋風家屋の増加による営巣数の減少

以前は、庇が大きく伸びた家屋が多かったが、現在は庇が小さく壁は汚れが付きにくい素材の壁になってきている為営巣しにくく、カラスなどの外敵に襲われやすくなっています。そのためツバメが営巣できなくなって繁殖数が減ったものと考えられます。

< 調査方法 >

- 1 調査時期 ツバメが巣作りを始めてから巣立つまで
- 2 調査項目 別紙 ツバメ調査票のとおり
- 3 報告と集計 まとめ あわら市エコ市民会議事務局（あわら市生活環境課）まで
メール or F A X or 直接提出により
- 4 調査担当者 ツバメ子育て応援団に応募した方